

## 魚津市定例記者会見 11月

日時：平成28年11月1日（火） 午後2時～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、朝日新聞社、NHK、KNB、BBT、チューリップテレビ、NICE TV  
市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、民生部長、産業建設部長、企画政策課長

### 1. 市長からの説明事項

#### (1) 「魚津のタテモン行事」がユネスコ無形文化遺産に登録の勧告

昨日（10/31）の夜、ユネスコ無形文化遺産に「魚津のタテモン行事」を含む山・鉾・屋台の登録の勧告が出たというニュースが流れ、とても嬉しく思っている。同時に、そういった指定を受けたということは特色ある貴重な地域での伝統文化をしっかりと未来へつないでいくと、そういった責務も負うことになったのだと思い、地域でそういった文化的活動を守っていく取り組みをしっかりとやっていきたいと思っている。ただ、まだ勧告（の段階）なので、月末か来月初めにぜひ正式登録になることを祈って待ちたい。

#### (2) 10月中の行事の振り返り

##### ①地区運動会

とても良い天気の日で、全地区回らせていただいた。住民の皆さんが元気に運動会に参加しておられたのがとてもよかった。

##### ②全国植樹祭 235 日前イベント

県庁でカウントダウンイベントがあり、本番に向けて準備を加速させる、そういった取り組みに参加させていただき、式典開催地の魚津市としても、さあ頑張ろうといった気持ちを新たにしました。

##### ③Sea 級グルメ全国大会（蒲郡市にて）

来年10月、記念すべき第10回大会を魚津市で開催することが決定された。来年は山と海の両方の行事があり、まさにこの魚津のポジションの特色を表せる行事が同時に開かれる年になるという思いをもった。

##### ④第169回北信越市長会（魚津市にて）

北信越5県69市の市長さんに集まっていただき、魚津市の産業面などの実情も見ていただいた。共通する課題を認識しながらも、魚津の産業の魅力や自然の特性などを感じ取っていただき、意見交換もさせていただいた。

##### ⑤〇〇（まるまる）魚津

例年の行事だが、とても良い天気に恵まれ入場者集も前年をだいぶ上回ったようだ。

##### ⑥富山大学との共同研究

地域再生論の講座を魚津市が協力する形で展開していくということで、経済学部  
の学生さんを中心に、魚津を題材にしてどのように地域再生ができるのかを勉強し  
ていこうと。年末あたりに若い方々からどんなご意見が出てくるのかを楽しみにし  
ながら取り組んでいきたいと思っている。

#### ⑦富山県知事選挙

投票率はなかなか厳しかったが、県下全体で2%余り下がる中、魚津市は1.8%  
上昇した。発射台が低いのであまり威張っては言えないが少しでも参加意識を高め  
るということをして市職員あげて頑張った成果ではないかと思っている。今後、若い  
方々の政治への参加意識をしっかり高めていくことに引き続き取り組みたい。

#### (3)魚津市表彰

11/2 に魚津市民栄誉賞贈呈式と市表彰式を行う。リオ・パラリンピックでボッチ  
ャ団体銀メダルを獲得された藤井友里子さんに魚津市民栄誉賞を贈呈、また魚津市表  
彰は個人13名団体1団体を表彰する。

#### (4)全国植樹祭200日前イベント

県で10月にイベントがあったところだが、市でも11/9の10時から市役所正面玄  
関でカウントダウンイベントを開催する。園児のアトラクション、カウントダウンボ  
ードの除幕式、ラッピングバスの出発式などを行い、機運を盛り上げるスタートの日  
にしたい。

#### (5)平成29年度魚津市行政経営方針

市をとりまく情勢としてはご存知のとおり、人口の減少、北陸新幹線の開業が必ず  
しも直接のプラスになっていない現況、そういった中で新たな観光ニーズを地域に呼  
び込んでいく、そういったまちづくりを進めるというのは従来と変わらない。このよ  
うな考え方のもとに、第4次総合計画第10次基本計画及びまち・ひと・しごと創生  
総合戦略を策定し取り組んできたわけだが、国勢調査の確定値が先般出て、人口が  
43,000人を割り込むような状況の中、地域の活力の源泉である工場や事業所の市外  
への移転に歯止めがかからないなど、かねてから予想はしていたものの現実の姿とな  
って表れてきたときのインパクトがかなりある。そういった意味では、本市を取り巻  
く社会経済環境は、これらの計画策定時の想定を超える形で進みつつあるという認識  
をもっている。

こういった厳しい状況の中で、この地域の持続可能な生活社会基盤をどうやって維  
持していくかということになるが、大きく3つの協働・連携を基本スタイルにしたい  
と思っている。

1つは、安心できる日々の暮らしを守る市民との協働をさらに進めていくこと。そ  
のベースの上に、2つめとして新たな産業やまちづくりを進めていくための企業や団  
体などとの連携・協働をもう少し具体的な形で進めていかなければならない。そのう  
えで3つめは、地域課題は地域の中だけでは解決できない、限界もあると思うので、  
もちろん地域の個性を活かしながら魚津市の知名度の向上や交流人口の更なる増加  
を図るために、魚津市ゆかりの人材やあるいは他の自治体や団体などとの連携、ネッ

トワークを強化し、少しダイナミックな動きを出す必要があるかと。この3つの協働・連携を基本スタンスにすえてあらゆる仕事の企画立案を進める、そういった意識を職員や市民の皆さんと共有していきたい。

その上で、これまで第4次総合計画の中で38施策を重点事業として掲げ、そのうち7つの分野を最重点と整理をしていたが、それはそれで変わらないものの、もう少し絞り込んだ形というか、特定政策分野という表現で5項目を掲げている。これまで言ってきた「観光・子育て・教育」の3つに加えて特に産業政策と地域コミュニティづくりを加えたものと捉えてもらえば分かりやすい。先ほどからお話している社会背景の中で3つの連携・協働をテーマに据えながら取り組んでいくのがこれらの分野という風にご理解をいただきたいと思っている。観光は、従来の狭い意味の観光ではなく行政分野の横断的な視点を強く意識していく。教育の充実や通学環境の安全確保の項目では、現在、小学校の統合を力を入れ進める中で、ハード的にもかなりしんどい時期ではあるものの、地域の皆さんから統合に伴って通学距離が長くなったり、子ども達の通学環境が変化したりする中で、とにかく通学路の安全確保をしてほしいという要望が多く聞かれる。したがって、例えば道路整備を考えていく上でもしっかりと優先順位をつけて、特にこういった子ども達の通学環境に配慮した道路整備から進めていく、そんなような考え方を持っている。

行政改革は休むことのできない分野であり、この点については従来からも様々な努力はしているが、更なる住民サービスの向上につながる取り組みはどんなものができるのか、予算編成過程の中で考えていきたい。

予算編成方針は少し具体的なものになるが、投資的経費いわゆる普通建設事業は大きく補助事業と単独事業の2つに分けられるが、基本的に前年度の一般財源額を上限にしながら、できるだけ国の補助金交付金を活用する、そういう姿勢で事業費をしっかりと確保していきたい。先ほど話した特定政策分野にかかるものについては、地方創生交付金の様々な制度を活用し、より一層事業の推進を図っていく。そういう姿勢で、この分野の上限額は設けていない。経常経費というのは、継続的なソフト事業あたりをイメージしてもらえばいいが、これについては数年間にわたる債務負担行為を設定しているものを除き、一般財源ベースで5%削減するというようなシーリングをかけることにした。この方針のもとに新年度の予算編成を行ってまいりたい。

## 2. 質疑応答での市からの説明内容

### 「たてもんをユネスコ無形文化遺産に登録の勧告」

#### 《記者からの質問》

改めて、たてもんがユネスコ（無形文化遺産）に登録勧告ということに関し、決定後は具体的にどうするのか現時点でのイメージをお聞かせ願いたい。

#### 《回答》

従来から訴えかけてはいるが、なぜこれに登録されるのかと。お祝いというよりは、放っておくとこの伝統ある行事が持続できないからこそ登録しようというのが

原点だろうと思う。そうすると必然的に担い手というか後継者のような中心になる人達をどうやって育てていくのかというのが真っ先に来る課題だと思っている。その上で人口が減少し地域の伝統が地域だけで維持できないのはいくら頑張ってみてもどうしようもないことなので、地域の外の人をどうやって巻き込んで力になってもらうかという、いわゆる外のパワーの取り込みが次の大切なことかと思っている。さらに今回勧告の対象となった国内 33 か所の他の地域との連携を図りながら地域の活性化に活かしていく。たぶんこういったことが必要なだろうと。ではどうするのか、というのはこれからだが、イメージとしてはこのような感じだと思っている。

例えば県内には 33 件のうち 3 つあるので、高岡や南砺と連携して取り組みを行うことは十分にありうるかと思うし、魚津市はちょっと距離があるが、県西部が含まれる昇龍道（観光ルート）の一部に入れていただければ嬉しいなと思うが、そういったようなことは考えていってもいいのでは、と思っている。

#### 《記者からの質問》

2 日間でのべ 300 人の（たてもん）ボランティアが協力しているが、そのイメージとは違うのか。

#### 《回答》

私のイメージは、祭り当日だけのボランティアではなくある意味祭りを根本から支えていただくような形で、そこまで視野を広げないとなかなか厳しいのではないかと。例えていうなら、田植えや稲刈りの時だけの手伝いではこの文化は守れないのではないかと思うので、そういうことはこれまで保存してきた皆さんとよく話し合いながらどういう形ならばやっていけるのか考えていく。

#### 《記者からの質問》

決定後に祝賀会などの予定はあるか。

#### 《回答》

正式に登録となれば、市民の皆さんとお祝いするようなことはしたいと思っており、どのようにするかは相談中。決まり次第お知らせしたい。また来年 2 月 5 日に記念シンポジウムを開く方向で調整中。

#### 《記者からの質問》

祝賀会はどのような内容か。

#### 《回答》

何日の何時に決定ということも分からないので、お客さんを招いて祝うというよりは、くす玉割りやパブリックビューイングをするような形かと。できるだけ市民の皆さんにも祝賀の現場に来てほしいが時間帯によっては難しいのではないかと。

#### 《記者からの質問》

県内の他の 2 箇所は常設展示をしている。たてもんは懸案になっていないか。

#### 《回答》

絶対に必要かそうでないかは言いにくい。たてもんを保管しておく場所そのもの

に苦勞されている面もあり、展示するにしても組立て前の状態か、一部組みあがった状態かによって答えは変わってくる。展示施設の有効性をしっかり見極めながら考える必要があると思っている。それよりも、先に述べたこと（＝担い手育成）の方が本質ではないかと思うので、そういう取り組みを進めていく中で盛り上がりがあれば考えていく必要があると思っている。

たてもんは、県内の他の2つとは趣が違ふ。なので、飾ってあるものを見て楽しいかと聞かれるとどうかと思う面もあり、工夫が必要かと思う。今の段階では、正式決定即ハコモノという考えではない。

#### 《記者からの質問》

本質的、より根本的なボランティアとはどういったものを考えているのか。

#### 《回答》

いろんな考え方があり、押しつけになっては困るのであまり詳細には言えないが、要は伝統を守るといふことと将来につないでいくといふことは必ずしもイコールにならない面もあるので、例えば、昔ながらのやり方を守らなければならないがゆえに人材がいなくなりなかなか厳しくなる、といふことであれば祭りの企画そのものに新しい視点を入れることも必要かと。そういった場合に、企画段階から地元以外の視点も入れながら一緒に考えていくと。例えば、地域外に宣伝やアピールをするにしても変わった考え方が出てくるような気もするし、要は参加のすそ野を広げるのを祭り当日だけでなくスタートラインから広げていく、そういうイメージでもっていければと。ただ、これは保存会の皆さんなどとよく相談していかなければならない。

#### 《記者からの質問》

現在、祭りの企画段階では教育委員会と保存会で関わっているのか。

#### 《回答》

市と商工会議所で作る魚津まつり実行委員会が中心となって魚津まつり全体を仕切っている。その中にたてもんが位置づけられている。たてもんはたてもん保存会が中心で（魚津まつり）実行委員会と意見調整をしながら実施している。

#### 《記者からの質問》

そこに地域外の視点が入る可能性もあるのか。

#### 《回答》

そういった方々のいろんな意見を入れてもいいのでは、といふこと。

### 「石井知事に期待すること」

#### 《記者からの質問》

石井知事が4選を果たされた。今後、知事に期待することと、また敦賀以西の新幹線ルート年内決定を求めて知事も動いておられ、魚津市には関西にゆかりの深い企業もあり、現在は北陸新幹線の開業で関西への直接ルートがない状況にある中でどのような期待をしているか。

## 《回答》

市町村行政全般という意味合いでは、これまでもそういった動きをしておられた部分は大きいとは思いますが、地方から国へ、制度を変えるあるいは作る動きを従来以上に市町村サイドの視点で強めていただければいいと思うし、またそれだけのパワーもあるので、そういった要望を知事へしていきたい。

新幹線については、早く大阪までつながることは絶対に必要だと思う。総体として利便性が上がるが、ただ、新幹線効果という点で魚津は直接及びにくいので我々としては新幹線駅まで来た人が魚津まで来ていただけるようなまちになることが必要で、我々自身の力でそういった場所にならなくてはいけない。そのために都市の魅力を上げる取り組みが必要なのだとすれば、どういった駅周辺なりまち全体として、行ってみようかと思ってもらえるまちづくりを進めるのが根本なのかなど。地域交通という意味ではいろいろ課題があるので、そういった面は魚津市以外の市と連携をする必要があるのではないかと考えている。

## 《記者からの質問》

3つのルートではどれがいいと思っているか。

## 《回答》

京都を通るのがいいかと思う。

## 「東京の中板橋商店街に『うおづや』オープン」

### 《記者からの質問》

魚津としては初めてのアンテナショップがオープンする。どのように見ているか。商店街で経営するという珍しいパターンでもある。

### 《回答》

詳細な企画はまだ知らないが、とても期待している。店主の浦山さんと話をした時に、首都圏における魚津の情報発信拠点にしたいと意気込みを聞いている。首都圏の人をツアーで魚津に送り出すような提携もしていきたいということだった。魚津市もベクトルを合わせて頑張りますのでという話をした。

## 「平成 29 年度魚津市行政経営方針について」

### 《記者からの質問》

来年度の一般会計総枠としても今年度の総額以内に収めるということか、それとも特定政策分野は上限を設けていないので総枠として上回る可能性はあるのか。

### 《回答》

総枠として上回る可能性はある。従来は、予定している事業費を積み上げ財源不足額という形で示していた。今年も似たような作業はしているものの、入ってくる財源にはやはり限りがあり、無制限に要求をしても無駄な作業に終わってしまうので、ある程度財源を踏まえたうえでの要求をしてもらうことにした。ただ、事業費ベースで抑えるようにとは言っていないので一般財源を有効に活用する組立てを

工夫することを強くアナウンスしている。

《記者からの質問》

注力する部分とメリハリをつけるということか。

《回答》

単純に前年の事業を継続しそこに新たなものを入れるという考え方は持っていないので、注力するものと我慢するものが出てくる。

《記者からの質問》

投資的経費は今年度の額以内に収めるということだが、特定政策分野に投資的経費は入らないということか。

《回答》

入るケースもある。投資的経費は、補助事業と単独事業があり、財源措置の有利なものを使えば使うほど一般財源の額が変わらなくても事業費は膨らむことになる。単独事業は一般財源のみなので、それが特定政策分野に関わるのであれば制限抜きで考えるし、視点が違うものについては厳しいですよ、ということ。

予算規模がどれくらいになるか、今の時点では全く分からない。

《記者からの質問》

これまでも予算を切り詰めてきた中で、さらに5%カットは厳しいという印象だが、目標シーリングは可能なのか。

《回答》

5%カットは大変だと思うが、ぎりぎり可能なラインということで設定した。いろんな財源措置のあるものを活用すれば、5%カットは実現可能なエリアに入ってくる。

「魚津市を舞台にした映画製作」

《記者からの質問》

けっこうすごい俳優陣の映画製作が進んでいるようだが、市長の期待する部分は。市も協力しているようだが。

《回答》

ボランティアで（エキストラの）協力はしていると聞いている。監督さんにはご挨拶したがそれ以外はノータッチで内容も知らない。

《記者からの質問》

寂れた田舎町の設定だが、魚津のPRになるのか。

《回答》

別にかまわないのでは。原作のコミックは読んだが、脚本はあえて読んでいないので知らない。

《記者からの質問》

原作は壮絶な内容。逆にイメージダウンになる心配はないか。

《回答》

誘致したわけではない。そのテーマにあった街だと思って撮影をしてもらっしやる。せっかくなら応援しましょうということで人的なボランティアはしている。

### 「公約に掲げた産科クリニックの進捗状況」

#### 《記者からの質問》

市長選での公約である産科クリニックの進捗はどのような状況か。

#### 《回答》

まだ具体的にお話できる状況にない。スタート時に必要な医師の確保は少しずつ進んでいるが全員メドが立っている状態ではない。プラス持続可能な産院になるためには若い医師が入ってくること、非常勤でもかまわないのだがそういった学生さんなり若いドクターが少し関与するような仕組みがみえないと厳しいかなと思っているので、将来を見据えた体制を考える時は、そこまでしっかり話を詰めながらある程度姿が見えてくれば具体的なプランについての協議が出来るようになるのではと思っており、それを一生懸命にやっている段階と思ってもらいたい。